



シニアースカウティング ② を考える

シニアードベンチャーキャンプ の内容とその目標について

稲葉 睦美

BSでできなかった冒険のプロ

シニアードベンチャーキャンプは、改正された教育規定によるグリーンシニアースカウトからシニアースカウトになるための進級課目のひとつで、何よりもボーイスカウトではできなかった冒険的なプログラム、シニアースカウティングに対して魅力をもたせるプログラムが要求される。

グリーンシニアースカウトは、それがたとえ少年菊スカウトの経験者であったとしても、まだシニアースカウティングのプログラムの展開法、隊の組織や運営法をよく知っているわけではない。

したがって、このシニアードベンチャーキャンプの企画の段階では、先輩のスカウトたちによ

って一応の目安ともいえるべき標準プログラムをあらかじめ作っておく方がやりやすい。そしてこのシニアードベンチャーキャンプを経験することにより、シニアースカウティングの展開法をよくマスターしてもらい、シニアー章を修得した時点では、個々のニーズにより、個人、班、隊の年間プログラムをつくり、自分たちの力でそれを実行してゆけるように方向づけをしたい。

シニアードベンチャーの実例

ここに示すシニアードベンチャーキャンプの一例は今年4月1日から4日まで、日連那須野営場で行われた神奈川連盟のシニアー集合訓練、ゴールドデンアックストレニング(GAT)コース

に参加したスカウトたちが実行したものである。

この時のシニアアドベンチャーキャンプは県連湘北地区がそれを主催し、横浜地区および湘南地区のスカウトを加え、2個隊編成でその数76名上級班長、隊付以上には、その3期、4期(50, 51年度実施)出身の隼、富士スカウトをもってプログラムの展開を行った。

各種委員会は班長会議の設定によって自主的かつ積極的に運営され、集合訓練の特色ともいえる相互研さんの成果は、また見事に発揮され、シニアスカウトたちは底知れぬ力強さを見せ、訪問した原隊のリーダー、そして経験豊かなはずのGATコースのスタッフさえも驚かせた。

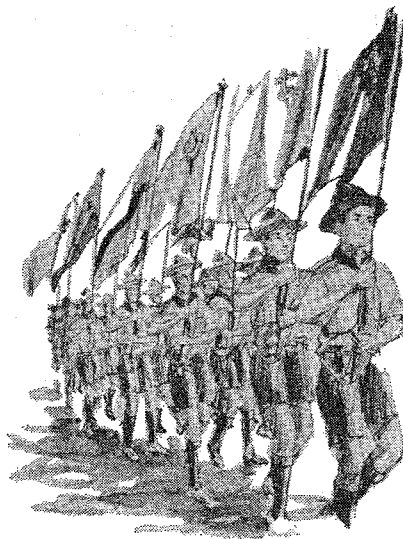
” ” ” ” ” ” ” ” ” ” ” ”

トレーニングの方向

このトレーニングでは技能の修得には、あまり力を入れなかった。しかしリープナイト(飛躍の夜)と名づける夜話やスカウティングと宗教など“ちかい、と”おきて、の基本については各班にテーマを与え、ディスカッションをさせ、彼らなりにそれを考えるように仕向けた。

別項の内容は解隊のとき、封書に入れて密封したもので、家庭に帰ってから、その父母と共に読み、そして感想文を郵送させた。そのすべてのスカウトたちが、いかに真剣にそのプログラムに取り組み、そして精神的に向上しようとする態度がその内容からもよく推察することができる。

シニアアドベンチャーキャンプを修了すると、スカウトたちは一応原隊に帰る。しかし、直後に開かれたラウンドテーブルで、直ちにその再編成の申し出があり、新たにスタッフも強化し、夏の県大会、あるいは隼挑戦キャンプ(GATコースのそれは多くの場合、ルックワイドをテーマとした遠征)、来年度の第7回日本ジャンボリーを目標にして、最低1か月に1回の集会(それは土、日にわたる1泊キャンプ、または合宿、60



~70%のオーバーナイトハイクや、野外料理研究会)。そして7月に入ると4泊5日の合宿をもって、信号、救急、水泳、溺者救助、あるいは漕艇消防章などの技能訓練がくり返されるであろう。すべて日赤や消防学校の教官等によるインストラクター制をとっており、さらに“ちかい、と”おきて、の基本原理の精究も続けられるであろう。

” ” ” ” ” ” ” ” ” ” ” ” 体で受け止める試練の影響

そしてスカウトたちは、常に向上してゆくということが、どんなに大切であり、またやりがいのあることなのか、その間の試練にうち勝つことは若い彼らにとってその長い人生に、今後どのように影響してゆくかを体で受けとめることだろう。そして、それをさらにはげます意味において、隼スカウト、富士スカウト章が与えられるとしたらその喜びはどんなに大きいことだろうか。そのように仕向け、進歩制度を活用してゆくことこそ、シニアスカウトリーダーの義務ではなかろうか。さらに、彼らがトレーニングコースを終えて原隊に帰ったときは、見ちがえるばかりのたくましいシニアスカウトになって、後に続くカブやボーイたちのヒーローとなっているとの報告は、数多く知らされている。そしてすでにこのコースの1期生(47年度)、2期生(48年度)修了者はぞくぞくとウッドバッジ研修所へ入り、若くしてすでに隊長、副長に育っているのである。

シニアアドベンチャーキャンプはシニアスカウティングの初めである。それは慎重な計画により必ず成果をあげ、スカウトたちに意欲をわきたたせるものでなければならない。



次ページに掲載したプログラムは、そのほんの1例にすぎないが、しかし、どんな形であるにせよ、その目標はしっかりと定めておくことが大切であると思う。

◇ GAT シニアアドベンチャーキャンププログラム ◇

とき：52年4月1日～4日 ところ：日連那須野営場

	4月1日(金)	4月2日(土)	4月3日(日)	4月4日(月)
8		起床点検 ⑧	起床点検	起床点検
9	各自グループごとに 現地集合 昼食は終えておくこ と。個人備品点検 開所式コース広場 ↓ 開所式 ① 隊集会 ② (基本動作他) シニア隊の ③ 組織と運営 プログラム ④ プロセス プログラム立案⑤ 委員会設定 夕食 ⑥ (支給) リーナイト ⑥ (ちかい、 おきて) 各種委員会 ⑦ 班長会議	朝礼 ⑨	朝礼 スカウトOWN	朝礼
10		隊集会 ⑩ (基本動作他)	隊集会 (基本動作他)	隊集会 ⑱ 年間プログラム発表
11		パイオニアリング⑩ または挑戦	パイオニアリング または挑戦	室内研修 ⑲ (世界の中の日本)
12		昼食	昼食	徹営, 清掃 ⑳
13				閉所式 ㉑ 昼食
14		パイオニアリング⑫ または挑戦	パイオニアリング または挑戦	
15				
16		評価反省	評価反省	
17		リンター作成 ⑬ 設営 夕食	プロジェクト法 ⑮ 年間プログラム 作成	
18			シニアスカウティ ングとは, その目的 ⑯	
19		社交活動 ⑰		
20		リーナイト ⑭ (スカウティングと 宗教)	評価反省	
21		各種委員会 班長会議	各種委員会 班長会議	

〔実施上の要点〕

- ①開所式 開所式までの誘導係を決めておく。式の進行係はスタッフにおいて行う。
- ②隊集会 各班部屋わり決定、隊集会は基本動作と自己紹介程度。
- ③シニア隊の組織運営 隊長ハンドブック内容と実例。
- ④プログラムプロセス シニア隊の年間プログラムの作り方個々のニードがいかに生かされるべきか、進歩制とのかねあいについて、シニアアドベンチャーキャンプの狙いこのシニアアドベンチャーキャンプについてのみは、すでに先輩のスカウトによってその標準プログラムが決まっている。それを自分たちでどのように運営してゆくか必要な委員会を作り班長会議の認定を得る。
- ⑤プログラム立案
- ⑥リープナイト 内容についてはあとでハンドアウトして渡し家庭に持ちかえらせる。(22時までには終えること、消燈23時)
- ⑦各種委員会・班長会議
- ⑧起床・点検 点検前に清掃のこと、室内のためこの日の点検は上班、隊長以上。

- ⑨朝礼 スカウトたち自身による、委員会に対しリーダーがアドバイス。
- ⑩隊集会 基本動作はスピーディにドリル、信号ぐらい入れてもよい。
- ⑪⑫ パイオニアリングは基本的なもの、2個隊のため挑戦とわけて行う。
- ⑬リンツァー作成 リンツァーはコース広場キャンプサイト周囲とする。木を傷つけないこと。炊事はキャンプサイトの中。
- ⑭リープナイト スカウティングに宗教はなぜ大切なのか。
- ⑮プロジェクト法 年間プロを作成してみる。そのうちGATでしかできないものはGATで行うように仕向ける。
- ⑯シニアスカウティングの目的
- ⑰社交活動
- ⑱隊集会 (⑤⑬でつくった年間プロをどのようにして実施してゆくか、原隊とのかねあいに留意)
- ⑲室内研修・世界の中の日本
- ⑳撤営 キャンプ場内外の清掃に奉仕する閉所式の時間は適宜定める。

◇ リープナイト(飛躍の夜)の内容 ◇

これからお話しする夜話のテーマを私たちはリープナイトと名づけました。Leap, すなわちそれは、**「飛躍の夜」**という意味です。ここに集まっているスカウト諸君、君たちの多くは今年高校へ進学したか、あるいは15歳以上になっているのですね。また、昨年、一昨年にシニアスカウトになっている人たちにとっては、今、君たちの後に続く者たちのために、しっかりと針路、シニアスカウティングとはどんなものであるかを行動によって示し、そして共に考え、よいアドバイスをしなくてはならない。君たちがかつて、そのようにしてもらったように。

高校生、何てすばらしいだろう。もう子供じゃない。カブやボーイとは違うんだ。自分で考え、自分から進んで行動するシニアスカウトのプログラムだって、自分たちでつくれるようにならなければならない。B-Pはそのことを「自分のカヌーは自分でこげ」といわれている。たくましくなってきた君たちの体。多分、お父さんにも負けないくらいだろう。そして、未知の世界へ

の希望と期待に満ちた目の輝き。君たちのご両親もスカウトのリーダーも、学校の先生も、どんなにか今日の来る日を待っていたことだろう。

そして将来への可能性、立派な社会人に育ててゆくことを期待していることだろう。口には出さなくとも、君たちを愛してくれている人たちは、みんな同じ思いなんだ。そして今、シニア隊の班長、上級班長の任務についている人たちも同じ道を歩いてきたのだ。いや、私たちにだって君たちのような時代があった。君たちのお父さんにだって。

もちろん、時代は変わった。戦争中のこと、敗戦によって何もなくて、食べるものにも着るものにも、そして住む場所もなく、焼けあとの防空壕の中に住んでいた人も大勢いた。いまの君たちには想像もできない瓦礫(がれき)の山、見わたす限りの焼野が原、その中から、君たちのお父さん、お母さんたち、今の社会の第一線にいる壮年期の人たち、そしてお年寄りの人たちは、一生懸命にそれも寝食を忘れて力いっぱい働き、たくま

しく起ち上がって、今日の日本、世界に誇れる文明と経済の発展をとげてきたこの日本を築き上げてきたのだ。

そ のかげには、多くの困難と犠牲、そして高度成長の社会的なひずみともいべき多くの問題もあるかも知れない。これからのスカウトたちはその問題もふくめて考え、それを埋めるように努力しながら、さらに向上していくような人、その原動力となる社会人となってゆかなければならない。個々のスカウトがそれを考え、探し求めて学ぶ、それがシニアスカウティングなのだ。

さて、今までの君たちを振りかえってカブやボーイ時代のことを考えてみよう。君たちは今まで、本当に恵まれていたことに、きっと気がつくことだろう。何の心配もなく生活し、遊び、学校へ行き、勉強し、クラブ活動をし、そのうえ、スカウトに入って楽しいキャンプや仲の良い友達と交わったりしてきたことを考えてほしい。そのような環境に自分がおかれていたことに対する感謝の気持ちをまず考えてみるのが大切なことだね。



君 たちの周囲を見回してごらん。君たちに限りない愛情を持ち続けてきた人たちのことを。ご両親をはじめ家の人たち、学校の先生方、親せきの人たち、友達、そしてスカウトのリーダー、など大勢の人がいることがわかるね。君たちは決してひとりではないんだ。自分だけよければいい、他人はどうなっても構わない「自分本位」という言葉はあるが、人間は決して、ひとりでは生活できないのだ。

社会のなかの1人、その巨大な組織のなかに入っている1人で、少なくとも文明社会の現代は原始時代のそれとは違う。ロビンソン・クルーソーのおとぎ話の時代とは違うんだ。もしこの社会の中で歩いて行けなかったら、そのルールに従えず、「ぼくはいやだ」というのだったら、それは他の人たちにも大きな迷惑をかけることにもなりかねないから、山奥か南の国の孤島で生活するか、さもなければ死ぬよりほかに道はないね。

社 会の中で生活してゆくということ、男としての義務をまず考えること、家庭をつくり、子

孫を残し、そして文明をもっと発展させてゆくための仕事。社会は動いている。世界も動いている。そのなかであって、人間一人ひとりが本当に幸福になれる社会を形づくってゆくためには、その一人ひとりが何を考え、何をしなければならないのだろうか。そんなことを個々の人間、特にスカウトならその一人ひとりが真剣に考え、自分の進路を見つけ出してゆくこと、パス・ファインダー（進路発見者）というのかな。それに向かって努力してゆくことがシニアスカウトの時代なのだ。

だ から、これからのシニア時代は、その人の一生を左右するかも知れないね。だからもう2度とこない、この青春時代は、その1日1日を大切にしてくかなければならないと思う。いつもどんなことにも全力投球をして後に悔いを残さないことだ。そうすれば結果はそのときすぐに出なくても長い一生の間には必ず現われてくると思う。人間は所せん自分本位にできている動物だから、どんなに偉い人でも自分を評価することはできない。自分に都合のいいように解釈するにきまっているから。それは自分以上に経験を積んだ周囲の人たち、そう、すべてが先生と思えばいいんだ。それと、もしかすると神さまかな。宗教というもまた少し難しくなるけれど、もしそうであるとしたらシニアスカウトの時代はそれについても考えてみなければならぬだろう。だって、そうでないと第一、「ちかい」の神と国につくすという意味がわからないはずだから。

あ、そこでひとつ連盟歌を歌ってごらん。1番にも大切な言葉がたくさん出てくるけれど2番の初めにある「まなこひらきて見きわめよ、耳そばだてて聞きただせ、我らにふだんのじゅんびあり、身体に心にあじゅんび」。この準備はスカウト精神の根底にある幸福な人生をおくり、幸福に死ぬための準備であることが、B-Pの最後のメッセージに書かれてある。「スカウト諸君、私は幸福な人生を送りました。君たちもまた幸福な人生をおくってほしいと思います。……幸福な人生とは他の人々に幸福をあげることによって得られるのです。そのために少年のころから身体を

さ あ、そこでひとつ連盟歌を歌ってごらん。1番にも大切な言葉がたくさん出てくるけれど2番の初めにある「まなこひらきて見きわめよ、耳そばだてて聞きただせ、我らにふだんのじゅんびあり、身体に心にあじゅんび」。この準備はスカウト精神の根底にある幸福な人生をおくり、幸福に死ぬための準備であることが、B-Pの最後のメッセージに書かれてある。「スカウト諸君、私は幸福な人生を送りました。君たちもまた幸福な人生をおくってほしいと思います。……幸福な人生とは他の人々に幸福をあげることによって得られるのです。そのために少年のころから身体を

鍛え、スカウトのおきてを守って、つねにそなえてください」ということが。

そしてシニアスカウトたちに対してよくいわれる「ルック・ワイド」ということが、その連盟歌で歌われているんだね。さっき、人間はどうも生まれつき、すべての人が自分本位にできているといったけれど、だって、ちょっと考えてごらん。君たちは大勢の人たち、友達とも知り合っているにしても、その人たちすべてが心からの親友であるかどうかを。気に入ったやつ、気に食わないけれど、しかたなしに付き合っているんだという仲間だっているし、いろいろあるね。けれど、その君にとって気の合わぬ人でも他の人からは親友かも知れないのだ。だから人間は、個人個人すべての価値観はその判断の基準が違う。

じゃ、けんかしてしまうかな。許せるかな、けんかしたとしたら、それが国と国なら戦争になってしまう。立派なイデオロギー、主義主張をくり返し、大演説をぶっても人間が自分本位の考え、エゴイズムがある限り、机上の空論になってしまう。だってそれを実行するのは、人間なのだからね。そこで他人に対する思いやりということが必要になってくる。思いやりというのは同情することではないんだ。それは、本当にその人の身になって考え、その人の将来もふくめてどのようにしてやればよいかということを考えてやることなのだ。これがちかいの2番目。いつも他の人々を助けますという本当の意味と思う。そしてそれが神の愛（寛容ということも含まれる）。仏教でいう慈悲ということにつながるのかな。

シニアスカウト諸君、君たちは今までにそんなことを考えてみたことがあるかな。あったら大したものだ。でもこれからは考えていってほしいと思う。だってこれから本当に大人になってゆくのだもの。

巨大な社会的組織の中に入って行くのだから、いつまでも君たちの周囲には今までと同じような好意的な人ばかりいるとも限らないし、パテン師だって現われるかも知れない。

「まなこひらきて見きわめよ。耳そばだて聞き

ただせ」。それはすなわち多くの人に接し、自分自身だけの小さな考えに止まらず、よく他人の話を聞き、たくさんの本を読み、また経験して、その上に立って正しい人生観、難しくいえば真理の追求をしてほしいと思う。

自分の信念、絶対に曲げない信念を持つ自分、それをつくってゆくということは非常に大切なことだ。だって、自信がなければ何をやることも、いうことも、まして他人に教えるなどということとはできないもの。けれども、それにもまして大切なことは、決してそれだけにとどまるということをしてしないということだ。いわば向上意欲を失ってはならないということなのだ。君たちには、何ものにもかけがえのない力、若さというものがある。これからシニアスカウティングを続けてゆくということは、今までよりもずっと大変なことだ。学校の生活も中学時代よりずっと

厳しいと思う。けれどいつでも今の意欲・初心に返った心を失わずに力いっぱいぶつかって行ってほしい。失敗しても、はねかえされてもいい。そのたびに強くなってゆくんだ。ここでひとつだけテーマを出そう。人生につながってゆくことが、そのシニアスカウティングなのだと言ってきたけれど、その人間形成（人格）にはいくつかの要点があると思うんだ。ひとつは智、これはいうまでもなく知識。学校でいろいろなことを勉強してきたね。そのほかに信。これは自分を信じ、そして周囲の人たちから信頼されているということ、スカウトのちかいの最初名誉にかけてということだ。それから体、体がよくなければ何もできやしない。そのほかに財。今はおカネの世の中だという。さてその中で、もし、君たちがいま順位をつけるとしたら、どうつけるかな。

君たちはいま、大人の世界、人生という流れの中へ一人ひとりが乗り出したところだから、それはさかまく急流の中にカヌーをこいで行くことに似ている。その急流の中には、大きな岩がゴロゴロしているかも知れない。けれど乗り出したからには、途中で引き返すわけにはいかない。そしてそのカヌーの名には、B-Pがすばらしい名



前をつけてくれた。ローバーリング・ツウ・サクセス(成功への遍歴)という本の表紙に書かれている絵には、カヌーの舟の名は“Good Resolution”

つまり、正しい決断号、と名づけてあるということが。

(神奈川連盟副コミッショナー、医博)

◇ アドベンチャーキャンプに参加して ◇

参加してよかった

相模原第6団 岩沢 篤郎

シニアアドベンチャーキャンプが始まる前は激しく厳しいもの、何人かがぶっ倒れるほどの訓練を想像していた。そんな想像も始まってみると闘志が変わっていた。

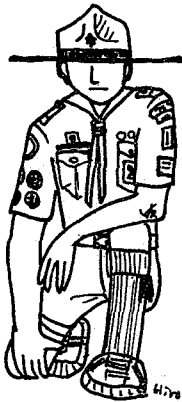
那須野営場での3泊4日、その中での挑戦、パイオニアリング、リープナイト、いくつかの講義そして委員会活動では、ある程度自分たちで計画し実施展開していくその面白さは格別だった。

これからのスカウティングに大きな目標をもつことができた。GATに参加してよかった。スカウティングを続けてよかったと強く感じている。

大いに自信がついた

相模原第6団 高橋 功

アドベンチャーキャンプは私にとり、春休み中でいちばん充実した4日間であった。ボーイ隊当時からあこがれていた緑のネックチーフをして、いろいろな隊のスカウトと一緒にアックスに参加できたことはうれしかった。最初はアックス出身のスカウトと比べ、自分についていけるだろうかと不安に思った。



4日間を終えて、参加前とくらべ自信がついたように思う。

アックスに参加して、さらにわからなくなったことも少なくない。たとえば、「宗教とスカウティング」などもその一つだ。しかしまだ私たちはスタートを切ったばかりで、これからアックスのトレーニング、ま

た原隊での活動、私生活の中でより深く、より広く考えてゆこうと思う。

収穫が実に多かった

大和第2団 稲葉 浩明

議義については、原隊でもより深い話し合いがされており、何度も聞いているので、僕自身にしては新しいものではなかったが、松田先生の宗教とのかかわり合いについての話は自分でも考え始めていた矢先のことであり、とても印象深かった。

正直にいうと、僕がこのコースに参加することになったのは、隊からの半分命令みたいなものであったが、参加してみて隊リーダー、上班の言動態度を見たこと、自分自身の自信と反省など、収穫は実に多かったと思う。

飛躍した自分を感じる

大和第2団 伊東 哲也

今までの活動では、裏でこそこそしていたが、今度はそうはいかない。僕はキャンプにいいんだ。キャンプでは、リーダーにおこられたりしたが、どうにか4日間を乗り切った。

この4日間は、非常に神経を使った。それによって自分がみんなと同じ一線に並んだように思えた。

人から見れば、前と大して変わりばえがしないかも知れないが、自分では自信がついたことを大きな収穫だと思っている。

どうあるべきかを考える

大和第3団 新居 直明

私は、このキャンプで「今までのスカウティングは一体なんだったのだろうか」と反省し、「これから私のスカウティングはどうあるべきか」とよく考えることができたと思う。

宮城県で内申書に校外活動

宮城県高校入学者選抜審議会（委員長・宮川善造 東北学院大教授）は5月12日、公立高校入試制度改善について「内申書（調査書）の評価はこれまでの学習記録の偏重を改め、学校以外の特別活動ですぐれた生徒にA評定を与え、入試選考の際、十分考慮する」という中間報告をまとめた。

Aの評定は3部門を合わせて各中学校の3年生全員の6%を限度とし、中学校長が認定する。認定の基準は、

(1)中学校の特別活動でリーダーとして継続的に努力した実績のあるもの。

学校内外で奉仕活動の顕著なもの。青少年、赤十字、ボーイスカウト、ガールスカウト、子供会などの少年団体のリーダーとして長期的に努力した実績のあるもの（社会的活動）

(2)中体連などの競技会で優秀な成績を示したもの（体育的能力）

(3)芸術作品展示会で優秀な成績を示したもの（芸術的能力）—として
いる。同県教委では早ければ、来年度の入試からA評定を導入したいとしている。（毎日新聞、5・13）

私を指導してくださったリーダー、キャンプに参加させてくれた両親、機会を与えてくれた神に感謝し、スカウトであることが薰ってくるようなスカウト人間になるよう努力したいと思う。

学ぶところが多かった

秦野第1団 古谷 日出男

4日間で学んだことは、いろいろととても多かった。敬礼からスカウトサイン、気をつけ！ 休め、隊形ドリルなど。

それと僕が初めて経験したセッション。

また楽しいこと、3日の夜の社交活動、新しい友達、古くて新しい友達など。

ほんとに長いキャンプだった。いろんなことが思い出されるが、少し自分に自信がもてたようだ

自らの反省に役立つ

横浜第34団 金子 浩

全般的にいて、大変厳しかったが、また今までのキャンプの中では非常に楽しいものだった。キャンプ期間中、班長をやらされたことは、正直言って負担だった。しかしそれは自分を大きく成

長させるうえで大変に良かったと思う。

場所的なことではもう満足の一言で、設備もよく、そのうえに本格的なパイオニアリングができたことが何よりもうれしかった。

リープナイトについて、自分はうっすらとわかったつもりである。ショックを受けたことは自分の未熟さ、シニアとしての自分がとてもだらしなく思えたことである。

真剣に取り組んだ

厚木第6団 馬場 一

最初は、このキャンプが一種の地獄に見えた。しかしキャンプになんとか慣れると、スカウティングをふだんよりも幾分早いペースでマスターしているように感じた。それはきっと今までにないほど真剣に取り組んだためだろう。私はここで物事に真剣に取り組んだときの大切さを実感した。

それからリープナイトは良かった。今までどうとなしに進んで来て、めったに考えることのなかったスカウトの基礎を私の心によみがえらせ、しみじみと見直させてくれた。